

令和7年度 多可町 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：12名（兼務）
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - *認知症相談センターとしての相談・対応
 - *認知症ケアネットの普及
 - *SOSネットワークの普及・拡大
 - *地域支援者の仕組みづくり・支援
 - *認知症初期集中支援チーム員としての取り組み

報告者氏名：多可町役場ふくし相談支援課 地域包括支援センター
足立由・高見・高瀬・沖田・足立ち・浅田・安村

多可町 認知症施策全体図

2025年4月



R7年度多可町の認知症施策について

多可町が目指す姿

◇みんなで支えあい、安心して健やかに暮らせるまち

「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」「認知症施策推進大綱」を踏まえ、「多可町第9期介護保険事業計画」に基づき、町民一人一人がその個性と能力を十分に発揮するとともに、お互いの人格と個性を尊重しつつ支えあいながら共生する、活力ある地域の実現に向けて、認知症の本人と家族とともに認知症の人の視点に立ち施策を推進する。

1. 認知症の理解 ～新しい認知症観の普及～

認知症サポーター養成講座

認知症に対する正しい知識や対応方法を身につける講座を行う。

★集落だけでなく、小中高校、企業、シニアクラブ等で実施する。

2. 認知症バリアフリー化の推進

(1) チームオレンジ活動促進、ステップアップ講座の実施

正しい知識を持ったボランティアをステップアップ講座で養成し、認知症の本人が安心して暮らすために手助けとなる活動を行う。

★ステップアップ講座の実施(年1回)、チームオレンジの活動の支援



(2) あんしんはーとねっと事業

支援が必要と思われる方を地域全体で見守るネットワークづくりを構築する。

★中学生を対象に見守り訓練を実施し、西脇警察署と連携していく。

3. 認知症の人の社会参加の機会の確保

(1) 絆カフェ (本人発信・家族支援)

お茶を飲みながら気軽に認知症等の相談や、本人や家族同士の交流ができる場をつくる。

★事業所の連絡会を定期的に行い、本人発信ができるよう検討していく。

(2) 若年性認知症の人への支援

ひょうご若年性認知症支援センターや障がい者相談支援センター等と連携し、状況に応じた生活支援につなげる。

(3) 成年後見制度の利用促進

認知症等により、判断能力が十分でない方が不利益とならないように、家庭裁判所に申し立てをし、後見人等を選任してもらう制度。

★成年後見支援センターの普及啓発を行う。

4. 保健医療及び福祉サービスの 相談・提供体制の整備

(1) 相談窓口の周知

町内に6か所の認知症相談センターがあり、身近に相談できる体制を整える。

★認知症相談日を開設し、身近なところで相談できるよう、普及啓発を行う。

(2) 認知症ケアネット

認知症の進行度に応じたサービス提供の流れをまとめたものを作成している。 ★改訂を行う。

(3) 認知症初期集中支援チーム

サポート医と医療・介護の専門職で構成するチームが訪問し、早期対応に向けた支援を行う。

5. 認知症予防

(1) 元気あつが広場

週1回公民館でいきいき百歳体操を行う。 ★3年毎に認知症タッチパネルを実施。

(2) コグニケア

週1回、頭と体の運動と健康づくりセミナー等を通して認知症予防を行う。(生涯学習講座で実施)

(3) 73歳タッチパネル実施

75歳の運転免許更新前の73歳を迎える方を対象に認知症タッチパネルを実施。

(4) 認知症予防健診(はつらつ健診)

はつらつ健診で認知症チェックリストまたはタッチパネルを実施。

★認知機能の低下が認められる場合は、予防教室や医療・介護保険につなぐ。

(5) リフレッシュ教室

医療専門職によるもの忘れ予防の教室です。12回コースを年2回実施。★終了後は地域の居場所へつなぐ。

標題 認知症高齢者等の見守り～中学生を対象とした見守り訓練～

あんしんはーとねっと事業

町と警察署が連携し、各種団体や町内外事業所とともに、地域全体で高齢者を見守り、暮らしをサポートする仕組みです。

「見守り」と「行方不明時の捜索協力」の2つの機能を備えています。

事前登録

行方不明等の恐れのある方は、ご家族の同意のもと、事前登録をいただくことで、緊急時の対応が迅速に行えるよう警察署と情報共有を行うとともに、捜索時の手がかりとなるように、キーホルダーやカード、靴などに貼る反射シールを渡しています。



反射シール



キーホルダー

カード

標題 認知症高齢者等の見守り～中学生を対象とした見守り訓練～

あんしんはーとねっと事業協力事業所

介護事業所や医療機関、薬局だけでなく、スーパーやコンビニ、販売店、郵便局、銀行、理髪店、地元の企業など、私たちの身近にある様々な事業所に協力事業所として登録をいただき、気になることがあれば連絡が入る体制を構築しています。

こんな相談が・・・



協力事業所が

18団体105事業所

となっています。

(R8.3時点)

何回か同じ手続きで来店される。
服装なども気になる。

毎週配達しているが、
最近では配達をしてもらっていないと
言われることが頻繁になっている。

相談を受けて、
ご本人の様子を確認するために訪問したり、
ご家族と連絡を取り、必要な支援につなげています。

標題 認知症高齢者等の見守り～中学生を対象とした見守り訓練～

町内の中学3年生に、見守り訓練を実施

実施のきっかけ

- *参加した研修で“若い世代へ、認知症について伝えることが大事”という他の自治体の取り組み報告を聞いた。
- *中学校の先生より、新型コロナウイルス感染拡大で中断していた、認知症サポーター養成講座を再開したい、とお声をいただいた。
- *チームオレンジたかの認知症サポーターと一緒に取り組めることを考えていた。

内容

見守り訓練・認知症の講座

- ① 学校から講座の会場までの道のりに、認知症の人に扮したサポーターが待機。
- ② 認知症の講座
- ③ 講座後、学校までの帰る道のりにも認知症の人に扮したサポーターが待機。
- ④ 学校で振り返りアンケート。

- 認知症とは
 - 認知症の人への関わり方
 - グループワーク
- 認知症の人に気づくことができたのか、どう対応すればよいか



標題 認知症高齢者等の見守り～中学生を対象とした見守り訓練～

講座修了後のアンケートより

①認知症のイメージは？

講座前

- ・かわいそう
- ・怖い病気
- ・迷惑をかけてしまうもの
- ・物忘れが増える
- ・何もわからなくなる
- ・関わるのが面倒



講座受講後

- ・認知症の人は、できないわけではなく
苦手なことが増えるだけ
- ・自分なりに頑張って思い出そうとしている
- ・本人が一番不安に思っている
- ・寄り添うことで認知症の人も幸せになる
- ・支えてくれる人がたくさん地域にいと
安心できる

②講座をうけて自分ができることは？

- ・見守って、困っているようだったら正面から優しく声をかける。
- ・本人のペースに合わせて話をする。
- ・「手伝うことはありますか？」と聞く。あれば自分のできる範囲でその方の手助けをする。
- ・自宅や目的地がわからないのであれば、交番や目的地まで一緒に行く。
- ・近くにいる大人に助けを求める。

標題 認知症高齢者等の見守り～中学生を対象とした見守り訓練～

中学生を対象とした見守り訓練を実施して…

正しく伝えることで、
認知症に対するイメージは変わる。



認知症推進員

朝・夕の登下校や放課後など、
ちょっとしたサポーターの見守りが
温かい地域づくりにつながる。



チームオレンジ

車社会となり、道を歩く人が少なく、
歩いていても、気づいてもらいにくい。
普段の生活で、声を掛け合える関係、
地域を作っていくことが大切。

最後に…

- ・若い世代が認知症について学ぶことで、高齢化が進む地域であっても見守りの意識が高まると実感した。
- ・中学生に伝えることで、保護者につながり、地域全体で新しい認知症観の普及につながってほしいと期待している。今回は、関心の高い先生からの声かけであったが、今後も、学校の福祉学習でも取り組んでもらえるように関係機関と連携していく必要がある。
- ・チームオレンジが見守り訓練に参加することで、認知症推進員と認知症サポーターがチームオレンジの必要性について再認識することができた。
- ・認知症があってもなくても、さりげなく声をかけ合える関係の地域づくりを目指していきたい。